

稲門の心和ませる 大阪早稲田の森

大阪城の京橋門から入った先に、ひっそりと佇む「大阪早稲田の森」。周囲の草木にすっかり溶け込んだその場所は、アネモネやハナニラなど季節の花が美しい大阪城公園の隠れた名所となっている。大阪城の天守閣を眺めながら散策を楽しめば、きっと心が休まることだろう。だがなぜ、高田馬場でもないのに、「早稲田の森」なのだろう。そのような疑問を抱く方も少なくないのではないだろうか。



< 4月の倶楽部祭のあとには早稲田の森を訪ねて稲門の絆を固くする（2014年） >

この森が誕生するきっかけは、昭和38年（1963年）に遡る。大阪市長選に立候補するため大阪早稲田倶楽部会長を辞した中馬馨氏（昭和4年政経）は、市長当選後、「大阪を緑の街に」を合言葉に、大阪緑化百年計画を掲げた。これに賛同したのが、中馬氏と同期の倶楽部の昭四会と一つ上の昭三会。他の倶楽部員も呼応し、80人を超える校友らから約30万円の浄財が集まり、昭和43年（1968年）11月、大阪城公園に記念すべき樟^{くすのき}9本の植樹が行われた。



植樹をする中馬市長（右）と時子山総長（昭和44年）

翌44年には、この活動に感銘を受けた早稲田大の^{とこやま}時子山 常三郎総長も樟の記念樹を寄贈した。しかしこの時はまだ、特定の大学名で森を名乗ることを大阪市は認めなかった。中馬氏が早稲田出身だから特別扱いしたと揶揄されるのを避けたと思われた。

「大阪早稲田の森」が正式に誕生する転機は昭和46年（1971年）。校友の間にこの名称の実現に向けての機運が高まり、造成に向けて約300人から300万円を超える募金が集まった。熱意と努力が功を奏し、ついに、3,400㎡にも及ぶ敷地に造成と、「早稲田の森」の礎石を据える許可を得た。

全国に先駆けて地方第一号の「早稲田の森」がここ大阪に誕生した。森には、常緑樹や樟、^{たいざんぼく}泰山木、マテバシイ、^{しらかし}白欒、落葉樹、銀杏、トウカエデ、桜、メタセコイア、ヒラドツツジ、アカシヤなど様々な樹木が次々に植えられていった。礎石には、由緒深い大阪城石が使われ、銘板には中馬氏の勇筆が刻まれた。記念すべき植樹祭は、昭和47年（1972年）5月に挙行。完成を目前に没した中馬氏が祭典を喜ばしく見守っているかの如く、当日は五月晴れの太陽に森が映え輝く快晴となった。同年10月には、建設省（現・国土交通省）主催の全国緑化促進大会にて、大阪市の公園緑化に貢献したとして倶楽部に感謝状と記念盾が贈呈された。

昭和51年（1976年）には村井^{すけなが} 資長総長の手により、早稲田の森の標石が新たに設置さ

れた。時が経ち、平成 14 年（2002 年）にはリニューアルされ、白井克彦総長も植樹に訪れ、森から大阪城を眺められるほどの景観になった。

近年では、4 月に森之宮の KKR ホテルで行われる「大阪早稲田倶楽部祭&新入会員歓迎会」後の散策スポットとしても、多くの会員から親しまれている。この季節、早稲田の森は八重桜を満開にして皆が来るのを待っているようだ。

こうして、卒業した先輩方の熱く深き思いと多大な努力によって、生まれ受け継がれてきた「大阪早稲田の森」。そこは、今も私たちを楽しませ、心を和ませる場所となっている。季節の折、この森を訪ね、中馬馨氏に思いを馳せてみるのもよいのではないだろうか。これからも大切に継承していくとともに、先人が残した緑豊かなこの場所から、大阪の発展と早稲田の交流・絆の輪がさらに広がっていくことを願う。

